

平成 26 年度事業報告

(1) 糖尿病の予防及び治療に関する正しい知識の普及啓発事業

- 1-1 「糖尿病ライフさかえ」の発行
協会誌として様々な企画を盛り込みながら、親しみやすい内容で糖尿病の治療に関する正しい知識の啓発を行った。
- 1-2 糖尿病関連書籍の発行
「糖尿病食事療法のための食品交換表」、「糖尿病食事療法のための食品交換表活用編」、「糖尿病性腎症の食品交換表」、「糖尿病治療の手びき」を発行した。
- 1-3 全国糖尿病週間の実施
平成 26 年 11 月 10 日(月)から 16 日(日)までを全国糖尿病週間とし、「社会でサポートする糖尿病」のテーマのもと、日本糖尿病学会との共催、厚生労働省、日本医師会、日本放送協会、日本糖尿病財団、日本歯科医師会の後援を得て、全国各都道府県糖尿病協会を中心に糖尿病に関する講演会、血糖測定、医療相談、栄養相談の事業を実施し、約 67,000 名の参加者があった。
- 1-4 糖尿病シンポジウム等のイベントの実施
 - ・神奈川 (11 月 16 日)、島根 (27 年 3 月 8 日)、において、糖尿病シンポジウムを開催し、延べ 1,100 名以上の来場者を迎えた。地元新聞社、テレビ局等の協力を得て、当協会の事業内容の周知を図るとともに、糖尿病に関する正しい知識の啓発を行った。
 - ・日本糖尿病財団との共催により、秋田(12 月 7 日)にて糖尿病予防キャンペーンを開催、延べ 250 名が来場した。
- 1-5 世界糖尿病デー関連のイベントの実施
11 月 14 日に第 8 回「世界糖尿病デー」のイベントとして、都道府県糖尿病協会を中心に国内 168 ヶ所、また世界で約 1,000 ヶ所のモニュメントがブルーにライトアップされた。また、各地で街頭イベント(血糖測定・ウォーキング)・講演会等を実施し、全国で世界糖尿病デーの啓発事業を行った。
- 1-6 Team Diabetes Japan
国内外 5 か所のマラソン大会に参加し、糖尿病の予防や治療についての啓発を行った。また、Team Diabetes Japan のこれまでの活動が評価され、第 27 回ランナーズ賞を受賞した。
- 1-7 HbA1c 認知向上運動の実施
企業委員であるサノフィ(株)と共催で「ヘモグロビン・エー・ワン・シー認知向上運動」を開催した。長崎(7 月 6 日)、和歌山(8 月 30 日)、兵庫(27 年 3 月 29 日)で市民を対象に、糖尿病の予防・普及啓発の一環として実施し、街頭イベントを通じて HbA1c の知識の向上や重要性を訴求した。合計で 6,100 人が参加した。また、メディアフォーラムを開催し、啓発記事の継続的な発信を通じて幅広い啓発を行った。
- 1-8 ウォークラリーの実施
運動療法としてウォーキングを楽しみながら、糖尿病の正しい知識を身につけることを目的とし

て、企業委員であるノボノルディスクファーマ(株)と共催で、全国 52 か所でウォークラリーを開催した。

1-9 療養指導者向け雑誌「DM Ensemble」の発行

糖尿病療養指導者（主に日糖協登録医、歯科医師登録医、コメディカルスタッフ）を対象とした糖尿病治療の最新情報を提供する「DM Ensemble」を季刊で年 4 冊発行した。また、雑誌と連携するウェブサイト(DM Ensemble オンライン)も立ち上げ、情報の発信と共有を図った。

1-10 登録医・療養指導医・歯科医師登録医制度の展開

日糖協登録医が 1,455 名となり、登録医から療養指導医への昇格者も 556 名となった。また、日糖協歯科医師登録医の登録数が 3,721 名となった。

1-11 日糖協 CDE ネットワークの構築

糖尿病チーム医療の推進のため、全国の CDEL 組織の活動の支援を行った。先行する地区の組織運営に関する情報や認定のための試験問題を収集し、希望する団体への提供を行い、申請のあった 23 団体に助成を行った。

1-12 糖尿病カンパセーション・マップ™を活用した療養指導の普及

IDF が推進する糖尿病教育用「糖尿病カンパセーション・マップ™」の普及を図る目的で、体験編と実践編に分けたトレーニングを全国 10 ヶ所（京都・愛知・石川・大阪・東京・福岡・岡山・佐賀・北海道・宮城）で開催した。

1-13 新しい糖尿病運動療法ブルーエクササイズの普及

ブルーエクササイズの普及に向けた効果検証を行った。また、糖尿病シンポジウムなどのイベント時にデモンストレーションを実施し、約 1500 名の参加者が体験した。

1-14 日糖協療養指導学術集会の開催

7 月 12・13 日に京都で第 2 回日本糖尿病協会療養指導学術集会を実施した。1,014 名の参加を得た。スモールグループディスカッションでは、9 テーマ、100 グループに分かれての議論を展開した。

1-15 地域での医療従事者対象啓発活動の支援

登録医・療養指導医・歯科医師登録医・CDE を対象とした講習会について資格更新対象講習会としての認定や後援等を行い、また、医療従事者を対象とした薬剤の適正使用のための啓発活動の支援を行った。

1-16 チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテストの開催

若い世代への糖尿病啓発と糖尿病食事療法のレシピ開発を目的に、栄養を学ぶ学生を対象とするレシピコンテストを実施した。（募集期間：6 月 18 日～9 月 15 日 二次審査・表彰式：10 月 19 日）全国から 41 校 119 件の応募があり、5 作品を表彰した。入賞作品を掲載したレシピブックを会員に配布した。

(2) 糖尿病の予防及び治療に関する調査・研究事業

2-1 調査研究

- ・インスリンアナログ混合製剤 1 日 2 回投与あるいは持効型溶解インスリンアナログ製剤 1 日 1 回投与によるインスリン導入の検討

最終解析結果を第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会に演題登録した。

- ・経口糖尿病治療薬(インクレチン関連薬を含む)投与に関する実態調査研究 (UNITE Study)
最終解析結果を第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会に演題登録した。
- ・65 歳以上の高齢者 2 型糖尿病における、シタグリプチンあるいはグリメピリドによる有効性および安全性に関する比較検討試験 (START-J)
中間解析結果を第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会にて発表した。さらに、最終解析結果を第 58 回日本糖尿病学会年次学術集会に演題登録した。
- ・インスリン製剤とシタグリプチン併用による有用性の検討・前向き観察研究- (I-UNITE Study)
症例登録を継続し、データ収集を行った。
- ・トログリフロジンの安全性および有効性の検討・前向き観察研究- (AYUMI)
症例登録を開始し、データ収集を行った。

2-2 よりよい医療の提供に向けた、血糖値をはじめとする糖尿病患者のデータの集積・解析 (EDDP : Electronic Diabetes Data Project)

事業化に向けた体制の検討を行った。

2-3 インスリン注入器の仕様共通化および血糖自己測定機器も含めた適切な使用手技の普及および企画の統一化に向けた活動

インスリン製剤区分表示の共通化、廃棄物の処理方法の周知啓発、血糖自己測定機器の適正使用などについて、関係企業での合意を形成し実施に向けた作業を行った。

2-4 糖尿病に関する基礎的・臨床的な研究を行う若手研究者に対する助成申請課題より 10 題を採択し、助成を行った。

(3) 糖尿病の患者及び家族に対する療養指導事業

3-1 糖尿病友の会の活動支援

全国の都道府県糖尿病協会を通じ、糖尿病友の会の活動の支援を行った。

3-2 糖尿病療養に役立つグッズ、冊子類の発行

製薬・医療機器企業等の協力を得て、糖尿病連携手帳、自己管理ノート、ID カード、英文カード、療養に役立つグッズの製作・頒布を行った。

3-3 1 型糖尿病対策

- ・小児糖尿病サマーキャンプの支援

小児 1 型糖尿病患児にインスリン自己注射や血糖自己測定などの正しい治療方法や食事療法、運動療法を習得させ、充実した日常生活を送ってもらうことを目的に、小児糖尿病生活指導講習会(サマーキャンプなど (50 ヶ所) を TOOTH FAIRY プロジェクト (日本歯科医師会と日本財団) の助成金を受けて開催した。

- ・第 13 回全国ヤング DM カンファレンスの開催 (徳島県担当)

高校生以上の 1 型糖尿病患者を対象にした「第 13 回全国ヤング DM カンファレンス」を徳島県徳島市で開催し(12 月 6 日 - 7 日)、延べ 204 名参加、1 型糖尿病の若者が抱える種々の問題点の解決や 1 型糖尿病の認知度を向上させるための社会啓発の方法について討議した。

- ・1 型糖尿病患児の就学調査のアンケートの準備を行った。

3-4 小児2型糖尿病対策事業

小児2型糖尿病および肥満の患児の教育事業の展開を検討した

3-5 インスリンケアサポート事業

- ・若年層向け、シニア層向けのインスリン治療に関するQ&A集を作成し、HPで公開した。
- ・運転時の低血糖予防を啓発するため、「糖尿病自己管理と低血糖1,2,3カード」を啓発委員会と共同で作成し、「さかえ」27年1月号に掲載した。

(4) 糖尿病に関する海外関係団体との連携事業

4-1 IDF-WPR

- ・シンガポールで開催された10th IDF-WPR Congress 2014/6th AASD Scientific Meetingに参加し、Global Villageにおいて、日糖協の活動をパネル展示や英文パンフレット配布を通じて紹介した。
- ・清野理事長のIDF Regional Award受賞に際し、WPR加盟団体の意見交換をはかる目的で祝賀交流会を実施した。

4-2 IDF-WPR Diabetes Foot Care Project

鈴木万平糖尿病財団の助成を得て、IDF-WPR Diabetes Foot Care Project Meetingの開催を支援した。

4-3 AASD

事務局業務の支援を行った。

(5) その他本協会の目的を達成するために必要な事業

5-1 会員増強

新たに個人の賛助会員（サポーター会員）を設け、協会活動の認知・協力を図った。また、協会案内、入会申込チラシ、「友の会」案内、さかえチラシを制作し配布を行った。

5-2 他団体との連携

・CDEJおよびCDEL組織との連携強化

各地のCDEL組織23か所に補助金を支出、認定試験問題や規約類の提供などを通じて支援を行った。

・日本歯科医師会との連携強化

歯科医師登録医の更新期に際し、日本歯科医師会と連携し更新手続きを促進した。

日本財団と日本歯科医師会が実施するTOOTH FAIRYプロジェクトから、18ヶ所の小児糖尿病サマーキャンプへ31人の歯科医師派遣を受けた。

・日本糖尿病対策推進会議への協力

医科歯科連携を検討するワーキンググループ会議に出席した。

・日本介護支援専門員協会との連携強化

医療と介護の連携を目指して、要介護支援症例に携わるスタッフの糖尿病勉強会を7か所で実施。参加者アンケートを通じて介護現場での問題点把握に努めた。また、ケアマネジャー向け

の糖尿病学習テキストの制作検討を行った。

5-3 災害時危機管理対策

災害に備えてインスリンの分散保管を啓発する「防災意識啓発ミニチラシ」の配布活動を、鳥取県、奈良県、岐阜県、北海道釧路市で実施した。配布した薬局数は 1,853 件、枚数は 93,338 枚となった。

5-4 広報事業

- ・プレスリリース（6回）発信
- ・日糖協ホームページを一新し、より見やすく情報を探しやすいページに変更した。
- ・日糖協 facebook ページで毎日糖尿病に関する情報を発信するとともに、都道府県糖尿病協会の活動を紹介した。

5-5 表彰事業

日本糖尿病協会賞（アレテウス賞、パラメデス賞、ウイリアム・カレン賞、功労賞、立川俱子賞）小児糖尿病関連賞（ガリクソン賞、小児糖尿病功労賞）、国際交流研究奨励賞の選考と表彰を行った。

(6) 業務の適正を確保するために必要な体制の整備

- ・平成26年4月13日の第1回通常理事会にて、表彰規則を修正した。
- ・平成26年5月24日の定時総会にて、定款ならびに会員に関する規則および会費に関する規則を修正した。
- ・平成26年7月6日の第2回通常理事会にて、情報公開規則および会計処理規則を修正した。

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。